



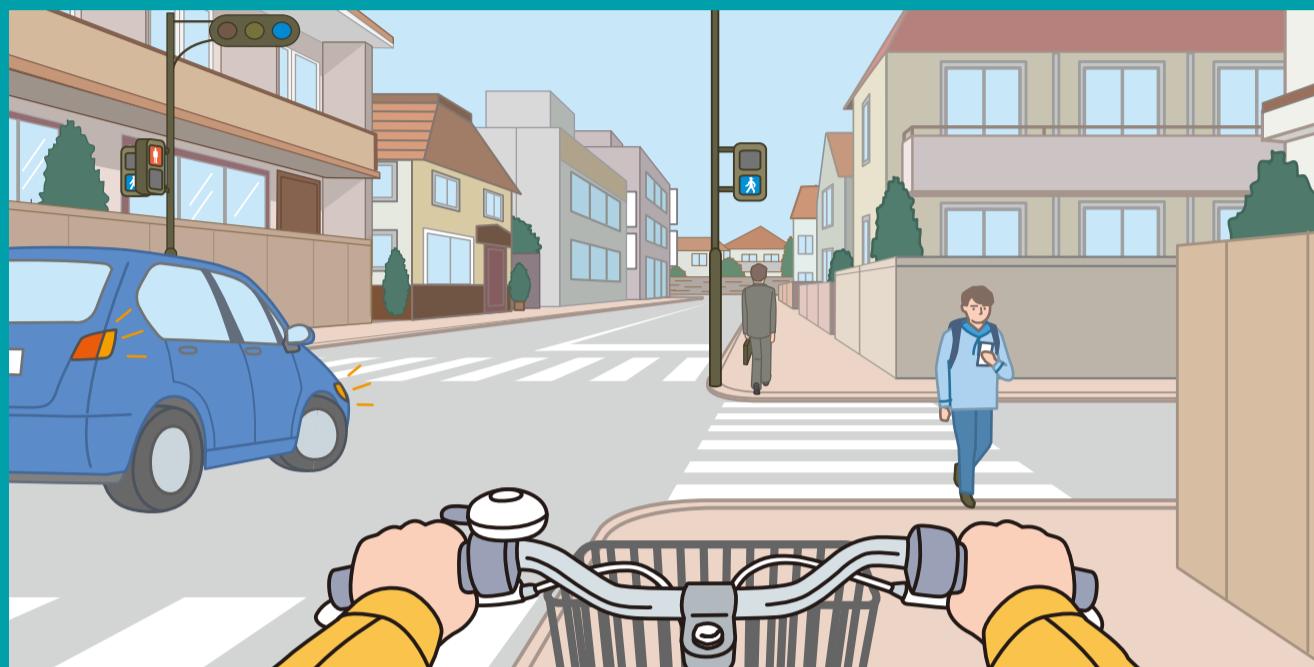
危険予測トレーニング

第94回 歩行者のいない横断歩道を渡る時（自転車編）

あなたは自転車通行可の歩道を走っています。

横断歩道には歩行者がいないので、そのまま進もうと思います。

安全に走行するためには、どのようなことを予測する必要がありますか？



交通事故を回避するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は自転車利用者に、歩行者のいない横断歩道を渡る時の危険について考えてもらうためのKYTです。

活用方法

- 少人数のグループをつくります。
- 「交通場面のイラスト」を見ながら、意見を出し合います。
- その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつければ良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト（カラー・A4版）」は下記SJホームページでご覧いただけます。またPDFファイルもダウンロード（無料）できます。

【使用上の注意】

- 営利目的での利用はおやめください。
 - 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
 - その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。
- 本田技研工業（株）安全運転普及本部
TEL : 03(5412)1736 E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp

© 本田技研工業（株）

ホンダ SJ 検索

SJ クイズ ?
自転車編

Q1

2024年の自転車（第1・2当事者※）の交通事故件数は10年前（2014年）と比べ約38%減少しています。相手当事者別にみた場合、対歩行者の事故件数は10年前と比べて、どのような状況になっているでしょう？

- ①減少している ②変わらない ③増加している

※第1当事者は交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者または過失が同程度の場合は被害が最も軽い者。第2当事者は過失がより軽いか、過失が同程度の場合は被害がより大きいほうの当事者。

Q2

2024年の自転車対歩行者の事故件数を事故類型別にみると、対面通行中（歩行者が自転車と対面して道路を通行）と背面通行中（歩行者の後方から自転車が進行）で約半数を占めています。対面通行中と背面通行中で多いのはどちらでしょう？

- ①対面通行中 ②背面通行中

Q3

自転車通行可の歩道で通行すべき部分が指定されていない場合、自転車は歩道のどの部分を通行しなければならないでしょう？

- ①どこを走っても良い ②車道寄り ③車道から遠い側



「解答」はP7下、「解説」は下記SJホームページでご覧いただけます。
<https://global.honda/jp/safetyinfo/sj/>

できるニヤンの交通安全アドバイス
～緑内障って、知っているかニヤ？～

緑内障は視神経の異常に起因し、視野障害をきたす目の病気で、日本では40歳以上の20人に1人が緑内障を患っているといわれています。気づかぬうちに病状が進行し、運転中に信号を見落としたり、他者の飛び出しに気づかなかったりして事故に発展する可能性があります。しかし、早期発見ができます。眼科での治療を通して症状の悪化を軽減することが期待できます。

そこで、Hondaは多くの人に緑内障への理解を深めてもらうため、緑内障啓発動画「できるニヤンの交通安全アドバイス～緑内障って、知っているかニヤ？～」をYouTubeのHonda公式チャンネルで公開しています。ぜひ、講習等でご活用ください。



Honda交通安全啓発キャラクター「できるニヤン」が緑内障について解説。運転中の正常な視野と緑内障の視野をHondaのシミュレーター技術を活用した動画（CG）で確認できる。



「緑内障啓発動画」への
アクセスはこちらから

SJ 編集部だより

～交通事故死者ゼロをめざして～

今、様々な分野でDX（デジタル・トランスフォーメーション）が進んでいる。このDXによって、私たちの生活スタイルや社会の仕組みも変わりつつある。

こうした中、学校などの教育現場にもDXが着実に浸透している。P1～3で紹介した鹿児島市は教育現場のICTの環境を整備。小・中学生がタブレットやパソコンを駆使しながら学びを深めている。同市教育委員会はICTとHondaの交通安全教材を組み合わせ、自由な発想でユニークな活用方法を考案した。このような活用方法が県内、さらに全国へと普及し、学校生活の中で日常的に交通安全教育が行われるようになることを期待したい。

こどもたちの学習環境の変化に合わせて、交通安全教育の手法も変えていく必要があるのかもしれない。もちろん、従来のアナログな交通安全教育がベースとなるのだが、さらにデジタルの活用により、こどもたちが交通安全を「自分ごと」としてとらえ、興味を持ったり、効率的に学び、考えるきっかけが増えるのではないかと思われる。

デジタル交通安全かるたやデジタル自転車かるただけでなく、SAFETY MAP（P4参照）もデジタルを活用して安全意識を向上させるための教育に役立っている。Hondaは教育現場のDXに対応し、こどもたちに交通安全に関する学びを深めてもらえるコンテンツを開発していきたいと考えている。